

「延命治療をすべきだったのか。」

ここ2、3年の間に近親者との別離が続いた。母方の叔父、叔母、父方の叔母、いとか。そして6月末に父が世を去った。

発端は脳梗塞で、コロナにも感染したり入退院を繰り返し、施設を転々としていたので、それなりの覚悟はあったが、連絡を受けたときは「ついにはその時が来たか」ではなく「なんで？」という感情が大きかった。

本人も家族としても延命治療は望んでいなかった。脳梗塞になった直後は、「リハビリがんばる。」とまだまだ元気そうだったので、回復を期待していたし家族もそう思っていた。新型コロナウイルスが蔓延し、入院先での面会が自由にできなくなり、しかもモニター越しなうえ、体調がどうなのか医者からの報告もほとんどなかったもので、転院のため久々に生身で会えたときにかなり痩せていて愕然とした。本人は回復する意欲はあったので、施設でしっかりリハビリして友達も作って楽しい余生を過ごしてほしいと思っていたのだが。

入所時に延命治療の事も話し合ったが、本人が望んでいないので、と断ってはいた。ところが、施設内でコロナに感染し、喉をやられ、食事を飲み込めなくなったことで一気に弱っていった。

会うたびに衰弱していく姿をみていると、無理やり生かしているような気がして、父親のためになっているのだろうか疑問というより何か罪悪感さえ有った。

やりたいこともできず、食事もできない。命をつなぐための点滴の針はすごく痛い。伝えたい事があるからと呼び出され、いざ行ってみれば忘れていたり、認知症も進んでいるとはいえ意識がまだしっかりしているだけに見ていてつらかったが、本人は相当しんどかったと思う。

いざ亡くなった旨の連絡を受けたときは、何で延命治療を受けさせなかったという後悔、もっと良い治療が受けられる病院に入れられていたらと自分は思うが、故人はどう思っていたらうか。

延命治療をしなかったのは、父の遺志を尊重し、医者や施設のスタッフと十分話し合ったうえでの措置だったが、臨終の場にいられなかっただけに本人が納得して逝ってくれたことを望むばかりである。

b y ひろりん

